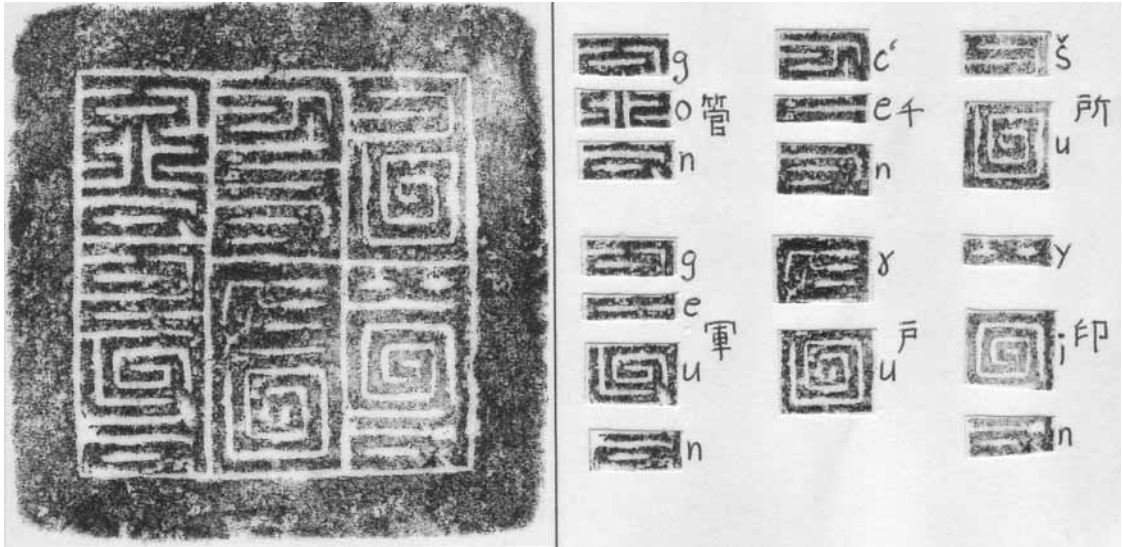


管軍千戸所印(パスパ字漢語)一類

吉池孝一

パスパ文字で漢語を音写した元代の大型官印を紹介する。



管軍千戸所印(パスパ字漢語)材質:銅。鈕形:杙鈕。寸法:全高80.1mm、印面69.3×69.5mm。重量:498g。背刻:大徳[不明]年四月。管理:古代文字資料館、個人蔵。

印面にパスパ文字の篆書体で「管軍千戸所印」とある。「千戸所」につき『元史』(巻九十一)に以下のようにある。

上千戸所,管軍七百之上。達魯花赤一員,千戸一員,俱從四品,金牌;副千戸一員,正五品,金牌。中千戸所,管軍五百之上。達魯花赤一員,千戸一員,俱正五品,金牌;副千戸一員,從五品,金牌。下千戸所,管軍三百之上。達魯花赤一員,千戸一員,俱從五品,金牌;副千戸一員,正六品,銀牌。

(上千戸所は軍七百人以上を管轄する。達魯花赤を一名、千戸を一名置く。共に從四品で金牌を佩用する。また副千戸を一名置く。正五品で金牌を佩用する。中千戸所は軍五百人以上を管轄する。達魯花赤を一名、千戸を一名置く。共に正五品で金牌を佩用する。また副千戸を一名置く。從五品で金牌を佩用する。下千戸所は軍三百人以上を管轄する。達魯花赤を一名、千戸を一名置く。共に從五品で金牌を佩用する。また副千戸を一名置く。正六品で銀牌を佩用する。)

『元史』に「千戸所」と「千戸」がみえる。前者は役所名で後者は役職名。当該官印の「千戸所」は、上、中、下のいずれであるか分からないけれども『元史』の役所名「千戸所」に相当。なお、印章背面部分の腐食が進んでおり写真や拓本での確認が困難であるが、肉眼で背面左肩に「大徳[不明]年四月」と刻されているのを確認することができる。年数部分は不明瞭。「二」もしくは「三」のようにも読みとれる。いずれにしても元の大徳年

間(1297~1307)のものであることに間違いはない。

二

文献資料によると、「千戸」を含むパスパ字漢語印には以下のものがある。「管軍千戸所印」は確認されない。

管軍下千戸所印(照那斯図1977;p.74の印7)

左衛阿速親軍千戸所印(照那斯図1977;p.74の印18)

驍忠義兵千戸所提押印(照那斯図1977;p.75の印22)

登州鎮海千戸所印(照那斯図1977;p.71の印40) 模写

行軍千戸所印(照那斯図1977;p.71の印41) 模写

毘陽等处義兵軍民千戸所彈压印(照那斯図1977;p.75の印42)

忠信義兵千戸所彈压之印(照那斯図1977;p.70の印58)

管軍千戸印(照那斯図1977;p.71の印65、元代印風p.41。同一) 模写

淮man盱眙等处義兵千戸所印(照那斯図1977;p.72の印82)

随州等处義兵千戸印(照那斯図1977;p.70の印87) 模写

左阿速衛千戸所印(元代印風p.46)

沿海巡防千戸之印(元代印風p.48)

淮海等处義兵千戸所之印(元代印風p.58)

三

照那斯図(1980;p.309)には印章および碑文の篆書体パスパ文字を集めた表が掲載されている。この表によると篆書体の字形には幾つかバリエーションがあるけれども、そのいずれとも一致しない字形を本印章に認めることができる。まずは印面中央の「千」を表記したパスパ文字をご覧いただきたい。c'en(千)の音節初頭子音c'は𠂔。音節末子音nは摩滅のためハッキリと確認することはできないけれども、影印および印面を直接観察すると𠂔もしくは𠂔のように見える。いずれも照那斯図(1980)にはない。「戸」を表記したパスパ文字をご覧いただきたい。yu(戸)の音節初頭子音yは摩滅のため字形の確認が困難であるけれども通常字形とは異なるように見える。c'、n、yのうち、nとyは摩滅のため明瞭さを欠いており他の新出資料の支持が必要であるけれども、c'の字形については、これが誤刻でないとしたならば、バリエーションの一つとして新たに付け加えることができる。なお照那斯図(1980)に納められたc'には𠂔と𠂔の二種がある。

参考文献

照那斯図(1977)「元八思巴字篆書官印輯存」『文物資料叢刊』1,文物出版社。pp.68-83.

照那斯図(1980)「八思巴字篆体字母研究」『中国語文』1980年第4期。pp.307-309,269.

黄 惇(1999)『中国歴代印風系列 元代印風』重慶出版社。p.284.

補：サイトへの掲載にあたり一部手を加えた。2005.7.11